

## 関係機関との連携により、地域資源「アセローラ」の製造販売（6次化推進）に取り組む企業を支援



左から、本部町商工会の内間指導員、株式会社アセローラフレッシュの並里社長と息子の康次郎氏、沖縄公庫北部支店の銘苅調査役

### 会社概要

会社名／農業生産法人 株式会社アセローラフレッシュ  
代表者／並里 哲子

当社が所在する本部町は、アセローラの生産が盛んで沖縄県から拠点産地として認定されており、当社はアセローラの「6次化」をいち早く手掛ける地域の中核事業者（平成元年創業、平成11年法人成り）である。当社の普及活動や行政の積極的な支援などにより、当初8戸だった契約農家が現在は30戸と拠点地のすそ野は広がっている。沖縄公庫は、第2創業のステージにある当社に対し、平成26年4月に新事業型資本性ローン（P15参照）などを本部町商工会（以下、商工会）と連携し実行した。

### 地域との連携

**（並里社長）**さとうきびにかわる農作物としてアセローラに着目し、そのブランド化による「地域おこし」が当社創業の原点になります。創業後の10年は地域での普及活動に注力し、その後の10年は、地元行政を含めた地元ぐるみの取組が奏功し、町のブランドとしてアセローラの認知度が高まったことで今日があります。業歴25年の道のりは必ずしも平坦ではありませんでしたが、今振り返ると「起業～家業～企業」へと10年サイクルで転機がありました。



### 今後の展開

**（康次郎氏）**大学卒業後、会社勤めをしていましたが、3年前から事業に参画しています。幼い頃から、生まれ育った地元に貢献する仕事がしたい、という思いがあったことや、母からアセローラに対する熱意や会社の現状などを本音で聞くことで、ここで挑戦したい、という気持ちが芽生えたことが事業参画を決めた理由です。



**（並里社長）**康次郎の事業参画も大きな転機です。これまで課題だったIT活用に対応することで、販路拡大などの効果が現れています。

**（並里社長）**内間さんと銘苅さんからの助言などを通して、「事業計画」「決算結果」「会社経営」などに関する重みを再認識しました。また、（今回の融資実行にかかる公庫の）プレスリリース後、契約農家から生産意欲が向上したとの声が寄せられたほか、新規取引などの想定していなかった「呼び水」効果がありました。農家や取引先の方々のご期待に応えられるよう引き続き努力して参ります。

**（内間指導員）**今回の連携では、長期的な視点から当社にとって最適な資金を提供していただきました。今後も、公庫には、単なる融資機関に留まらず、「経営改善」などに対するコンサルティング機能を発揮してもらいたいですね。

**（銘苅氏）**当社の強みは「経営資源」に独自色があることです。その独自色を育み「オンリーワン」企業に成長することを期待します。



**（内間指導員）**商工会も長年に渡り、当社のブランド化支援に携わってきましたが、財務基盤が強固になれば、更なる製品開発や販路の拡大を実現できると考え、「財務改善」を経営指導の柱とするとともに、沖縄公庫北部支店に協議、連携を持ちかけました。

### 最適な資金メニューの提案

**（銘苅氏）**相談を受けた最初の印象は、決算上の数字が厳しい内容だったため、あまり芳しくありませんでした。しかし、審査を進めるうちに、内間指導員の情熱指導により「原料調達」「製造」「営業」「財務」などの体制整備の進展が見られたことや、康次郎氏（社長の次男）の事業参画など、数字だけでは見えない「強み」を確認することで、融資実行に漕ぎ着けることができました。当社は第2創業のステージにあり、軌道に乗るまでの資金繰り支援と、商工会の指導ポイント「財務改善」に資する最適な資金メニューを組み合わせる融資を実行しました。

